

氏名（本籍） 栗栖 由美子（島根県）
 学位の種類 博士（音楽）
 学位記番号 博音第19号
 学位授与年月日 平成6年3月25日
 学位論文等題目 <演奏曲目> C. モンデヴェルディ作曲 主をたたえよ 他7曲
 <論文> 18世紀の歌唱法研究 Johann Friedrich Agricola
 『歌唱法の手引き Anleitung zur Singkunst』を
 中心に

論文等審査委員

（総合主査）	東京芸術大学	教授	（音楽学部）	毛利順子
論文審査会（主査）	”	”	（ ” ）	角倉一朗
（副査）	”	”	（ ” ）	瀬山真寿子
（ ” ）	”	”	（ ” ）	毛利順子
（ ” ）	”	”	（ ” ）	高木浩子
（ ” ）	”	助教授	（ ” ）	峰村貞子
（ ” ）	”	”	（ ” ）	土田英三郎
演奏審査会（主査）	東京芸術大学	教授	（音楽学部）	毛利順子
（副査）	”	”	（ ” ）	瀬山真寿子
（ ” ）	”	”	（ ” ）	高木浩子
（ ” ）	”	”	（ ” ）	角倉一朗
（ ” ）	”	助教授	（ ” ）	土田英三郎

（論文内容の要旨）

抄録 研究の概要ならびに特徴

この論文は、アグリーコラの『歌唱法の手引き Anleitung zur Singkunst』の中から現代の17、18世紀音楽研究者にとって重要な章を、現代の17、18世紀音楽研究者・実践者の立場から熟読検討し、同時代の他の理論書を参照しながら、実践者のためにも役立つ具体的な注釈を加え、もって学術的ならびに、実践者のための歌唱法手引書としても役立つ研究成果を導き出そうとするものである。

第1部 発声法

第1章 声区とその融合

この章では、声区に関するカッチーニ、トージ、アグリーコラ、マンチーニらの見解を検討し、現代の我々が持つ意見と比較しながら、最終的にはどのようにすれば17、18世紀の歌手たちが所

有していた幅広い音域、響きのある声、しなやかな声を獲得できるか、導き出してゆく。

第2章 メッサ・ディ・ヴォーチェ

メッサ・ディ・ヴォーチェとは「ある一音で、声を非常に静かに、極めて弱く出してから、最大限の強さまで徐々に強くしてゆき、強くするときと同じ要領で再び弱くしていく」という技法である。

この章では、(1)音を保つ練習のために、(2)装飾として、(3)声区融合のために用いられたメッサ・ディ・ヴォーチェについて、目的別に論じてゆく。

(1)トージ、アグリーコラ、マンチーニの見解を中心に。

(2)カッチーニ、プレトーリウス、ベルンハルト、マンチーニの見解を中心に。

(3)現代の音楽研究家リードの見解を中心に。

また、アムシュタットの“Das berühmte Notenblatt des Porpora.”の中から、ポルポラが、メッサ・ディ・ヴォーチェの訓練に用いたメソッドを紹介する。

第3章 イントナツィオーネ

この章においては、トージ、アグリーコラ、マンチーニらのイントナツィオーネに対する見解に触れ、同時に18世紀の音程の概念についても論じる。そして、現代バロックの声楽曲を演奏する際、楽器と心地良く協和するために声楽家が考慮しなければならない〈音程に関する規則〉を導き出す。

また、ピタゴラス・コンマ、純正律に音響学的な説明を加えた上で、平均律に慣らされた我々の耳には聞き分けがたい大半音と小半音の比率を算出する。

第4章 母音、発音

この章においては、トージ、マンチーニ、ベルンハルト、アグリーコラの母音、発音に関する諸注意を検討し、あわせてそれに伴う口の構え、口の開き方についても考察してゆく。

第5章 アジリタの技術

この章では、マンチーニのアジリタに関する意見を中心に、同時代の理論家たちの見解も折り込みながら、またポルポラがカファレリに与えたアジリタのメソッド、現代の歌唱研究家L. マネンが提唱するインポスト・メカニズムについても検討し、どのようにすればその技術を獲得できるか、導きだして行く。

第2部 装飾法

第1章 前打音

この章では、前打音の規則について、アグリーコラの意見や譜例を中心として、それに同時代の理論家の考察を添え、体系的にまとめる。

また、とくに前打音の時価をどのように設定するかの問題に関しては、J. S. バッハのアリアの中に書き込まれている前打音を実例として抽出し、アグリーコラの譜例に即してどのように解釈され実践されるべきかを検討する。

前打音のほかに後打音、アンシュラーク、シュライファーについても論じる。

第2章 トリル

この章においては、17世紀初期にイタリアで起こり議論され、ドイツでも普遍的になっていったトリルについて説明をしていく。

17世紀のトリルは、カッチーニ、プレトーリウス、ヘルプスト、ファルク、ベルンハルトの見解を中心に、また18世紀のトリルは、トージ、アグリーコラ、クヴァンツ、ガリヤード、マンチーニの見解を中心に論じる。

第3章 パッサージョ

この章では、トージ、アグリーコラ、ベルンハルトのパッサージョに関する見解に触れ、アグリーコラの指摘する正しいパッサージョの演奏法を体系的にまとめる。